

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和5年3月30日

事業所名: 平谷こども発達クリニック事業所はぐみ児童発達支援

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動に必要なでないものは置かず、簡素化している。定員におけるスペースは十分に取れている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		規定通りの配置数である。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		障がい特性に合わせて、THEECHプログラムに則り構造化をしている。玄関にはスロープ、階段には手すりを設けている。手洗い、トイレも使いやすく設置されている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		窓が多く取れていて明るい。空調も整え、換気にも配慮している。教材、教具等は使用後消毒を行っている。新型コロナ等の感染症にともない、換気扇や窓を開けるなど、換気には十分に気をつけている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		目標設定や振り返りは、職員全員で定期的話し合いを持って改善に努めている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		次年度の業務改善につなげていくよう職員で話し合いを行って。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○	事業所内に提示したり、法人のホームページで公開している。また、そのことを保護者に周知を図っている。また、HPのQRコードを作り、簡単に確認できるようにしている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	行っていない。	機会があれば行っていきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部の研修や法人の研修会(ZOOM)に参加している。また、事業所内でも計画的に研修を行っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントには児童に関わる職員が全員参加し、内容を客観的に分析し、ニーズや課題を踏まえた上で計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		福井県が発行している「子育てファイルふくいっ子」などを参考にしている。また、サマリーシートを作成し、移行支援にあたっている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		「児童発達支援ガイドライン」に基づき、具体的に分かりやすく支援内容を設定して保護者に説明をしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		定期的に支援計画を確認し支援している。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		その都度担当職員で話し合いを持ち、活動内容を考えている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童の発達に応じてプログラムを考えているので固定化することはない。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		個に応じて個別、集団の組み合わせ、計画を作成している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前には職員で打ち合わせを行ない、全体支援や児童個々の支援について確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員間で支援の振り返りをしている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎回、児童個人の記録を行い、関わった職員で検証をして改善を行っている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月ごと、更に年中児から年長児に移行する時にモニタリングを行い、見直しをしている。		
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当している職員や責任者が参画している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		法人のクリニックや福井県特別支援教育センター、こども園等と必要に応じて連携を取っている。	

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			こども園等に出向き、支援内容の情報共有や相互理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			就学先の小学校の移行支援会議に参加し、サマリーシートを作成して情報の共有と理解を図っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			専門機関の研修会に参加している。研修内容は職員間で共有している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		新型コロナウイルス感染症等の影響で交流はしていない。	状況を見据えながら、園等との交流を図っていきたい。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○			ZOOMによる会議にも参加した。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時に状況を伝え、共通理解を図っている。また、必要に応じて状況や課題を話す時間を設けている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			就学前の利用者には就学に関する情報提供を行った。家族支援プログラムとしての時間は設けてはいないが、保護者の相談には随時応じ、アドバイス等を行っている。また、モニタリング時には日頃の様子を聞き取り、必要に応じた家族支援を行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に読み上げ丁寧に説明をしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			「児童発達支援計画」は利用開始時、開始から6か月ごとに作成し、保護者に説明して同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			2ヶ月に1回予定表を配布している。また、活動予定や連絡事項は随時個別にメールや配布物で行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			個々で利用形態が異なるため、保護者同士の連携を図る支援はできない。	今後、要望があれば実施していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			申し入れに応じ、迅速に随時相談を受け入れている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			2ヶ月に1回予定表を配布している。また、活動予定や連絡事項は随時個別にメールや配布物で行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			個人のファイル等は鍵の付いたロッカーに保管している。個人のアドレスがわかるような一斉メールは行っていない。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚化して提示したり、文章を簡潔にしたりして、分かりやすく伝えている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			新型コロナウイルス感染症等の影響で実施していない。	新型コロナウイルス感染症等の状況を見据えながら、地域等との交流を図っていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			マニュアルを策定し、玄関の掲示板に提示して保護者に周知を図っている。また、発生を想定した職員研修や利用者を含めた訓練を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			水害についてのハザードマップや避難経路の提示している。年間計画に沿って、訓練、救出を想定した訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			アセスメント時の聞き取りや、フェースシートに記入していただくことで確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	-	-		食事の提供はしていない。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事例集は作成していない。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			事業所内で虐待防止の研修を行い、対応等について共通理解を図っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			事例集は作成していない。	今後、作成していく。